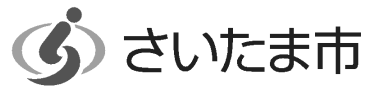


# しあわせ倍増プラン2009市民評価報告会 次第

日 時 平成24年9月22日(土)  
午前10時00分～午前11時45分

場 所 浦和コミュニティセンター  
多目的ホール

- 1 開会に当たって . . . . . 廣瀬委員長
- 2 評価結果の報告
  - ①評価結果の概要 . . . . . 長野委員長職務代理
  - ②市民評価委員会からの提言 . . . . . 廣瀬委員長
  - ③委員所感 . . . . . 伊藤委員、河西委員、木島委員、栗原委員  
須藤委員、高木委員、高島委員、橋本委員  
福崎委員、星野委員、町田委員、三浦委員
- 3 質疑応答
- 4 市長感想・自己評価 . . . . . 清水市長
- 5 閉会に当たって . . . . . 廣瀬委員長



# しあわせ倍増プラン2009 市民評価報告会



平成24年9月22日(土)10:00~11:45  
浦和コミュニティセンター多目的ホール

しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会

しあわせ倍増プラン2009市民評価報告会

## 開会に当たって

しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会

委員長 廣瀬 克哉

# 評価結果の概要

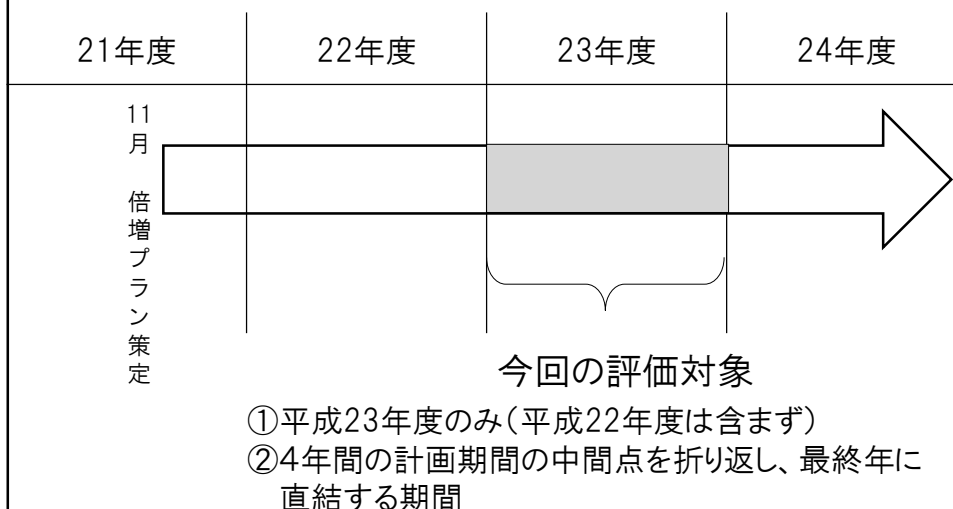
しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会

委員長職務代理 長野 基

## 1 評価の実施

報告書 P.2

### 倍増プランの計画期間と今回の評価対象期間



# 1 評価の実施

報告書 P.3

## 評価の対象

### ①4年間の目標を達成した事業を評価対象から除外

昨年度：平成21年度達成済みの2事業を除く137事業



今年度：平成22年度達成済みの13事業を除く123事業

※同一の目標を用いていた「ベンチャービジネス倍増プロジェクト」  
(56-1人材育成支援、56-2創業環境支援)の2事業を一本化したため、  
平成23年度から事業数が1減

### ②更なるヒアリング対象事業の絞り込み

昨年度：ヒアリング対象を50事業に絞り込む。

(残りの事業は書類審査で評価)



今年度：ヒアリング対象を32事業に更に絞り込む。

(残りの事業は書類審査で評価)

# 1 評価の実施

報告書 P.5

## 評価基準…平成23年度の単年度目標に対して

### 昨年度まで

評価基準	進捗度	加減要素	点数
目標を上回っている	a	↑	10
		→	9
予定どおり実施している	b	↑	8
		→	7
		↓	6
目標と比べて遅れがあるが実現に向けて実施している	c	↑	5
		→	4
未着手または大幅な遅れがある	d	↓	3
		↑	2
		→	1
		↓	0



### 今年度

評価基準	達成度
目標を上回っている	a+
	a
	a-
目標をおおむね達成している	b+
	b
	b-
目標と比べて遅れがあるが実現に向けて実施している	c+
	c
	c-
未着手または目標と比べて大幅な遅れがある	d+
	d
	d-

## 1 評価の実施

報告書 P.7

### 昨年度の市民評価委員会指摘事項への対応状況

(1) 工程表(事業計画)の明確化

(2) 社会経済情勢の変化に応じた倍増プランの目標変更

(3) 当初の目標を達成した項目に対する評価の取扱い

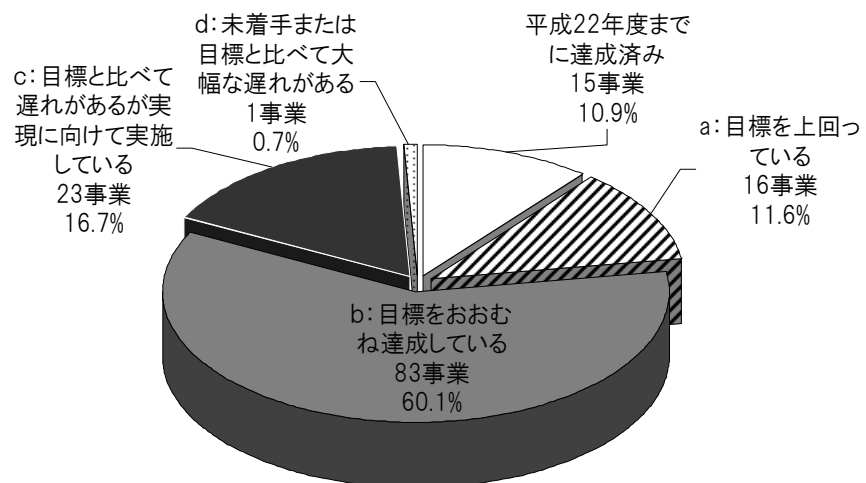
(4) 評価要素におけるコスト・パフォーマンスの重視

## 2 評価結果

報告書 P.11

### 全体の評価結果

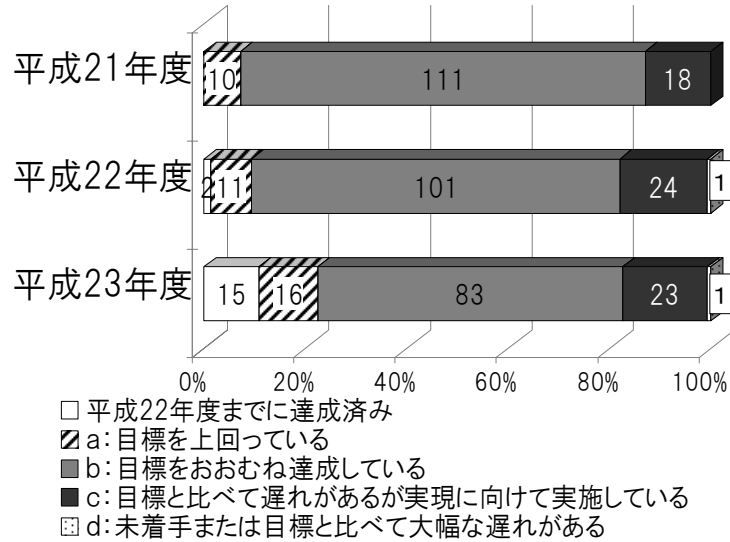
### 全体の8割以上は目標を達成



## 2 評価結果

報告書 P.11

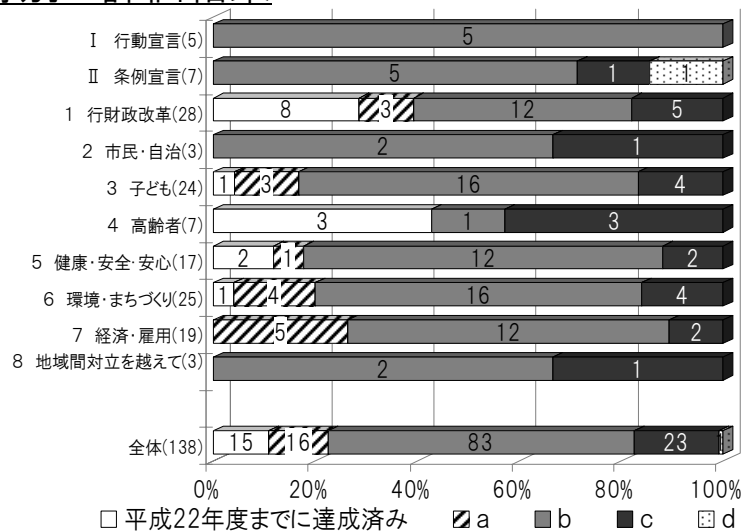
### 3年間の比較(全体)



## 2 評価結果

報告書 P.12

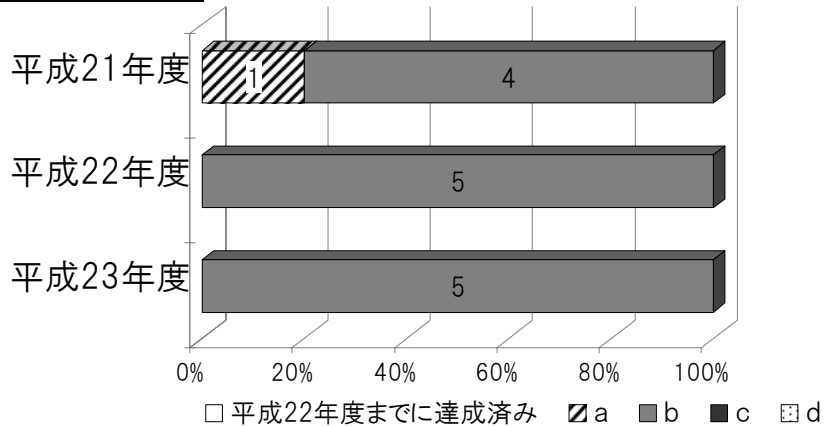
### 分野別の評価結果



## 2 評価結果

報告書 P.13

### (Ⅰ 行動宣言)



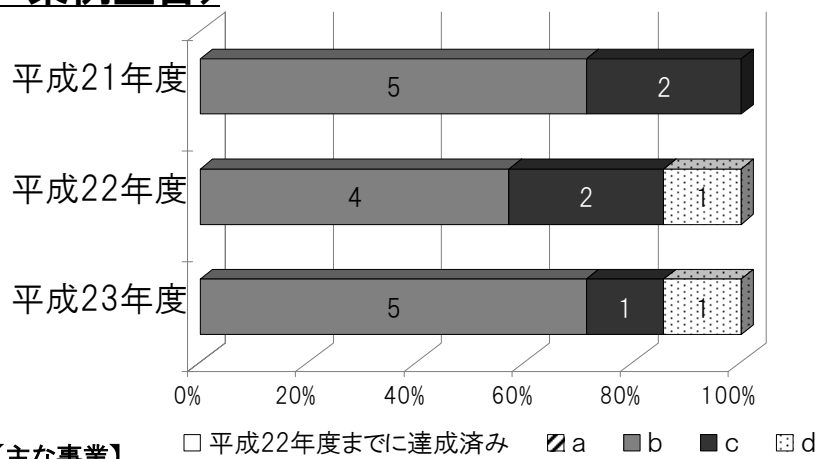
#### 【主な事業】

「タウンミーティングを全10区で計40回実施(No.Ⅰ-2)」、「現場訪問を400回実施(No.Ⅰ-3)」、「学校訪問を全校実施(No.Ⅰ-4)」等

## 2 評価結果

報告書 P.13

### (Ⅱ 条例宣言)



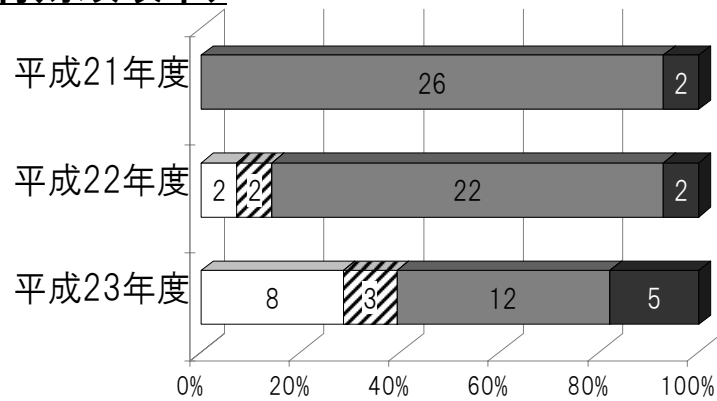
#### 【主な事業】

「スポーツ振興まちづくり条例を制定(No.Ⅱ-2)」、「ノーマライゼーション条例を制定(No.Ⅱ-3)」、「安心長生き条例を制定(No.Ⅱ-7)」等

## 2 評価結果

報告書 P.14

### (1 行財政改革)



#### 【主な事業】

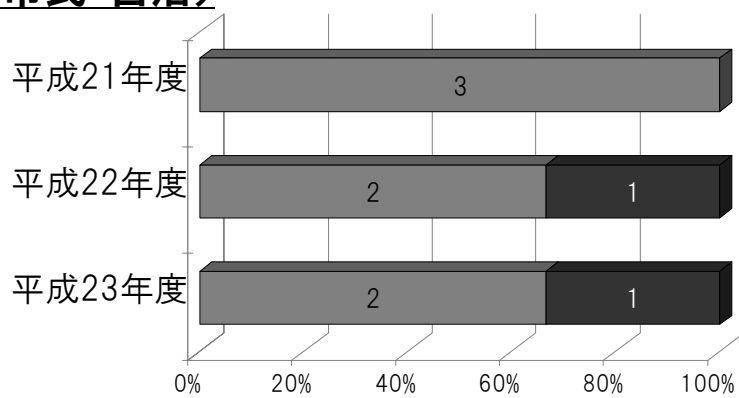
□ 平成22年度までに達成済み    ▨ a    ■ b    ■ c    ▩ d

「行政改革推進チームを、市長直轄組織として設置(No.1)」、「すべての窓口業務を区役所で実施(No.2)」、「情報公開日本一を実現(No.9)」等

## 2 評価結果

報告書 P.14

### (2 市民・自治)



#### 【主な事業】

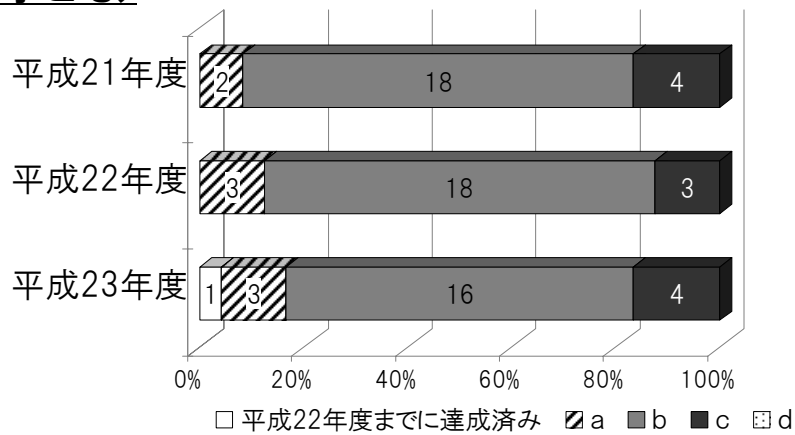
「マッチングファンド制度を創設(No.15)」、「大学コンソーシアムの仕組みを構築(No.16)」等



## 2 評価結果

報告書 P.15

### (3 子ども)



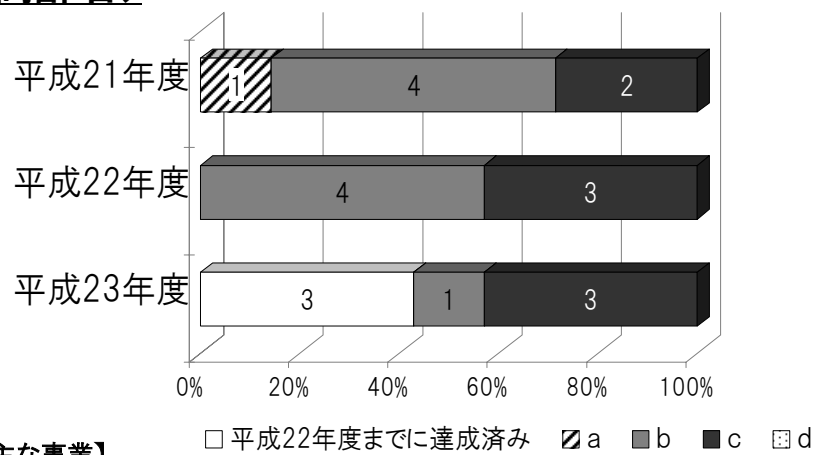
#### 【主な事業】

「児童虐待ゼロ(No.20)」、「土曜日寺子屋を実施(No.21)」、「待機児童ゼロプロジェクトを推進(No.24)」等

## 2 評価結果

報告書 P.15

### (4 高齢者)



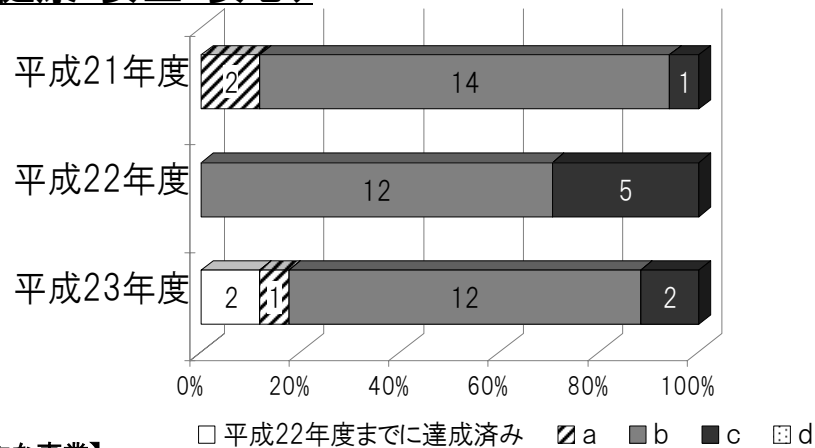
#### 【主な事業】

「高齢者サロン・介護者サロンを設置(No.33)」、「シニアユニバーシティを充実(No.35)」、「シルバー元気応援ショップ制度を創設(No.36)」等

## 2 評価結果

報告書 P.16

### (5 健康・安全・安心)



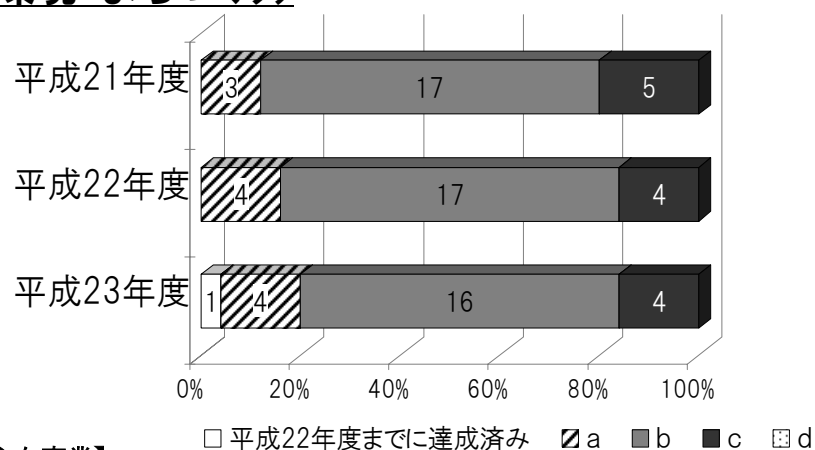
#### 【主な事業】

「健康寿命の延伸～元気倍増大作戦～(No.37)」、「遊休地などを活用した多目的広場を整備(No.38)」、「万全な危機管理体制の構築(No.39)」等

## 2 評価結果

報告書 P.16

### (6 環境・まちづくり)



#### 【主な事業】

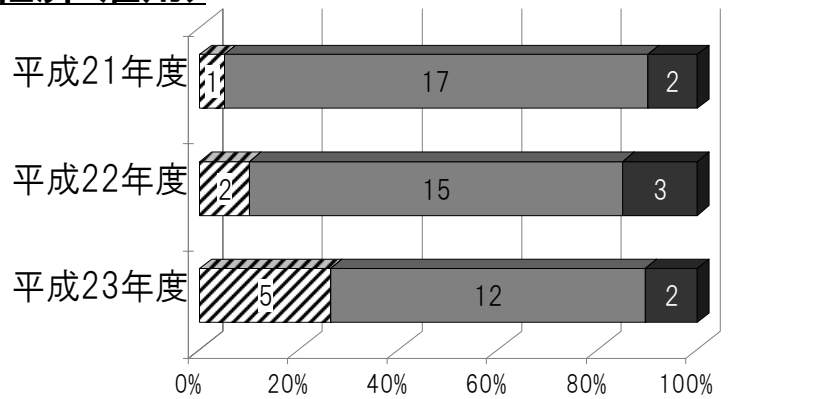
「E-KIZUNA Project」の実施(次世代自動車の普及促進)(No.44)、「公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業を実施(No.48)」等

## 2 評価結果

報告書 P.17

### (7 経済・雇用)

※平成21年度、20年度は20事業



【主な事業】

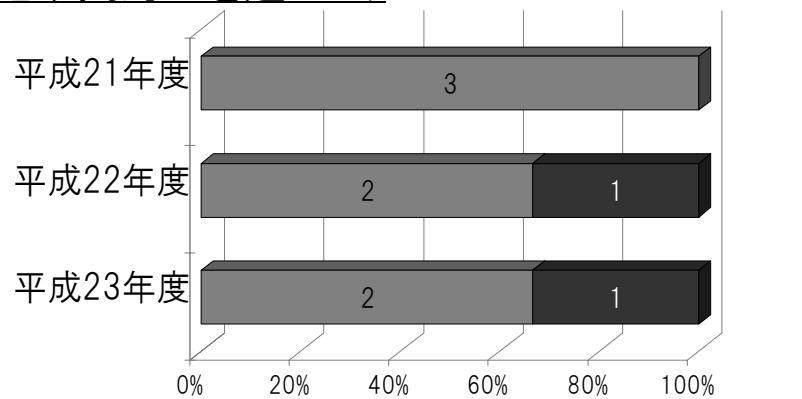
□ 平成22年度までに達成済み    ▨ a    ■ b    ■ c    □ d

「自立生活支援対策チームを設置(No.53)」、「観光客を積極的に誘致(No.55)」等

## 2 評価結果

報告書 P.17

### (8 地域間対立を越えて)



【主な事業】

□ 平成22年度達成済み    ▨ a    ■ b    ■ c    □ d

「大宮駅東口再開発を推進(No.60)」、「地下鉄7号線の延伸(No.61)」等

## 2 評価結果

報告書 P.18

前年度と評価の変動があった項目

前年度比アップ 21事業

H23 \ H22	a	b	c	d	合計
a	6	9	1		16
b	2	70	11		83
c	2	10	11		23
d				1	1
H22達成済み	1	13	1		15
合計	11	102	24	1	138

前年度比ダウン 14事業

## 2 評価結果

報告書 P.24

評価委員会の評価と市の内部評価の差

		評価委員会の評価								
		a+	a	a-	b+	b	b-	c+	c	c-
市の内部評価	a+	1								
	a		2	1						
	a-									
	b+				2					
	b				1	6				
	b-									
	c+								3	
	c							2		3
c-										

市の内部評価のほうが高い

評価委員会の評価のほうが高い

質的要素の差がある

進捗度の差がある

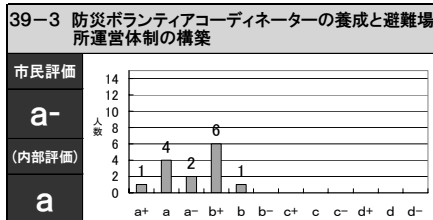
進捗度の差がある

## 2 評価結果

報告書 P.27

### 評価委員間の評価のばらつき

(質的に異なる目標を複数設定し、その進捗状況に違いがある事業)



(年度途中で目標を変更した事業)



## 2 評価結果

報告書 P.28

### 平成23年度の評価の総括

- ① **そもそもの政策目的を踏まえた評価が必要！**  
単に事業を実施しただけでなく、成果が得られたかの検証を
- ② **明らかになった課題への対処が必要！**  
事業実施後の課題を認識し、早期に手を打つサイクルを着実に実施
- ③ **政策課題や問題認識の共有が必要！**  
目標設定から事業の推進、課題解決には関係者等との認識の共有を
- ④ **庁内の連携が必要！**  
縦割り行政を排し、部局横断的な連携で効果的・効率的な事業を実施

### 3 評価委員会からの提言

報告書 P.32

～これまで3年間の評価を終えて～

昨年度は倍増プランの「進捗管理」と「目標設定のあり方」について提言

倍増プランの計画期間は平成24年度まで

今年度は、今後の「ポスト倍増プラン」を見据え、  
政策面の次の目標設定について、4つの提言

- ① 目標設定は市民生活向上の具体的な内容で
- ② 重要度、難易度に応じた事業の絞り込みを
- ③ 計画策定段階での市民参加
- ④ 施策・事業のねらいを市民と共有し、庁内連携を

### 3 評価委員会からの提言

報告書 P.32

～これまで3年間の評価を終えて～

- ① 目標設定は市民生活向上の具体的な内容で

事業の実施回数や整備箇所数を目標とした事業  
メリット……達成度を客観的に判断しやすい  
デメリット……市民生活が向上したのかわかりにくい



市民生活の向上が実感できる目標を  
個別の事業については社会情勢の変化等に柔軟  
に対応すべき

### 3 評価委員会からの提言

報告書 P.33

～これまで3年間の評価を終えて～

#### ② 重要度、難易度に応じた事業の絞り込みを

行政の仕事は幅広い分野をカバーしているが、  
事業によって重要度、難易度は異なる



特に重要度の高い施策の位置づけを明確に  
評価対象も重要度、難易度の高い事業に絞り込み  
その解決策を市民とともに探るプロセスを

### 3 評価委員会からの提言

報告書 P.34

～これまで3年間の評価を終えて～

#### ③ 計画策定段階での市民参加

市の計画の実施主体は、必ずしも市ばかりではない  
すべての公共サービスを行政が担うのは困難な時代



だからこそ、計画策定段階から市民参加で  
市民・行政の協働によるまちづくりを

### 3 評価委員会からの提言

報告書 P.34

～これまで3年間の評価を終えて～

#### ④ 施策・事業のねらいを市民と共有し、庁内連携を

市の施策や事業はまだまだ市民に浸透していない状況



施策・事業のねらいはどこにあり、課題は何か、  
それをどうすべきか  
市民と情報共有を！  
効果的な広報は市職員にとっても庁内連携の一助に

### 3 評価委員会からの提言

報告書 P.35

おわりに

3年間の取組を通じた  
市民評価委員会の成果と役割



政策の実行に当たっての課題を市民と共有  
⇒市民参画による評価の仕組みの継続を

市民と職員の政策議論の土台を構築  
⇒職員は市民に対し十分な説明と、ともに考える姿勢を

市民との協働による、市民全員参加のまちづくりを！



## 委員所感

しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会

伊藤 巖委員 1/2

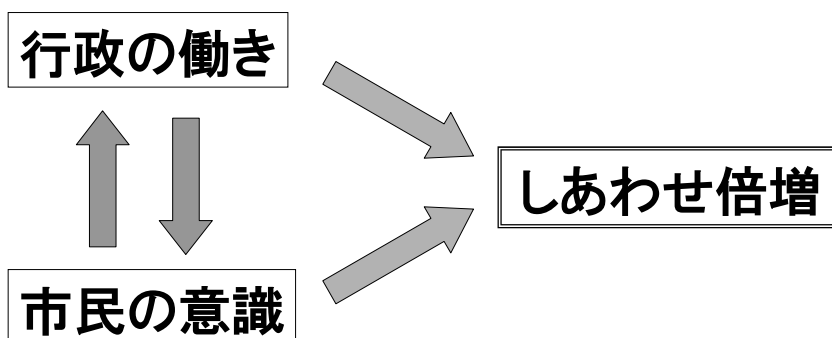
報告書P.40

### 1. 倍増プラン

- I 行動宣言…行ったことでどのような結果を得たのか
- II 条例宣言…条例の必要について
- 1 行財政改革 } 業務の見直しや検討
- 2 市民・自治 } (会議の増加及び書類、資料の増加)
- 3 子ども…教育関係の方針を具体的に明確化
- 4 高齢者…自ら行動し参加型の事業へ
- 5 健康・安全・安心 } 施設・人材を伴う整備、充実を
- 6 環境・まちづくり }
- 7 経済・雇用…自立支援、雇用対策の強化、充実を
- 8 地域間対立を越えて…現場を知った上での総合的  
対策を

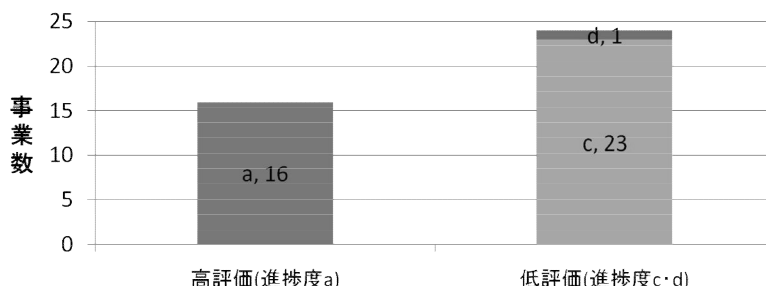
## 2. 今後の市政運営

- ① 条例や計画が多く、また市民にもわかりづらい
- ② 市民が何を求め、何を考えているのか、もっと現場の声を聞き施策に反映を
- ③ 超高齢化社会の到来、市民生活の向上と明日の子どもたちのために、未来あるさいたま市の発展を



高評価と低評価の事業での全体評価(事業数比較)

- ・高評価(進捗度a):目標を上回っている
- ・低評価(進捗度c・d):目標と比べて遅れがある
- ・進捗度b(目標を概ね達成)のものは目標をただ達成するのは当然と捉えて除いている



ここでの評価において、目標を下回った事業が上回った事業より8事業多く、残念ながらプラン全体では平成23年単年度の目標を達成できていない※

※ 委員個人としての意見。多面的な評価、ならびに結果の良し悪しを提示する必要があると考えて行った  
 ※2 あくまでも単年度での評価。プランの最終評価(四年間)が未達というわけではない

●目標を下回った事業の二つの問題点

- 1.目標達成への意識の低さ
- 2.問題点を正確に把握できていない

●目標を上回った事業への要望

- 1.素直に評価される環境、ならびに達成者に報いる制度の確立
- 2.目標達成を市職員も市民も誇りに思える仕組みが欲しい



●総括

問題解決と真摯な姿勢での努力により低評価事業を減らし、高評価事業は他の事業を引き上げ、相乗効果でプラン全体の進捗をすすめて欲しい

**「市民」と「行政」、  
ともに多様な目線を！**

**1、市政の「見える化」**

- ・ガラス張りの市政の適度な緊張感
- ・事業に対する市民の理解度向上

**2、目標意識の徹底による事業の推進**

- ・数値目標の達成と質的充実への進化

**3、事業の達成度評価**

- ・目先の身近な事業の達成度は良好
- ・重要事業、高難度な事業をいかに目標達成するか  
→新たな枠組み構築等

4、今後の事業達成に向けて

○価値感の多様化、財政の逼迫

- ・行政コスト低減  
→効率化と生産性向上
- ・事業別優先順位  
→市民への説明責任・利害調整
- ・市民パワーの活用  
→民間委託、ボランティア

- ①周知の拡大(情報の共有化)が必要  
→市の活性化
- ②学生(市民)が貢献できる事業  
→・子ども(No.17、19、21)  
・環境・まちづくり(No.42～44、47)、  
・経済・雇用(No.54-4)分野など
- ③市民が興味・関心を示し、参加したくなるような事業  
→市と市民が一体となり取り組めるまちづくり

**【事業評価について】**

- ・「4年計画の着地点に向けていかに展開しているのか」に着目

**【委員会運営について】**

- ・短期間で123事業を評価するには限界

**■大きな“さいたま市行政組織”のアライメントの重要性**

具体的な目標を掲げ、実現のための体制づくり

**■コンピテンシー(活かす力)とシナジー効果**

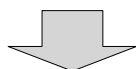
裁量権や法律のしぼり

…どこまで出来るのか知恵を出す、協力する

- ・評価基準がより明快に
- ・各事業の評価の重みが不均等な傾向
- ・所管課へのサポートが可能な組織へ

「さいたま市に住んで本当に良かったと思える街になるためにはどうあるべきか」

倍増プラン 8割以上の事業が目標達成



本当に市民のしあわせにつながっているのか

**これからも「市民」への  
積極的な周知・情報提供  
を期待**

- 3年間の継続的取組による事業進捗  
評価の手法開発と確立
- 市民と行政が政策と事業を論じ合う  
環境整備
- 「しあわせ倍増プラン2009」の次の  
段階へ



## 質疑応答

しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会

## 市長感想・自己評価

さいたま市長 清水 勇人

# 閉会に当たって

しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会

委員長 廣瀬 克哉

ご参加ありがとうございました



アンケートは出口付近にある「回収箱」  
へお願いします。ペンシルもお返しください